

1 題材・単元名 関東地方 「世界都市 東京」**2 題材・単元のねらい**

今回取りあげる関東地方については「(オ) 人口や都市・村落を中核とした考察」の仕方に基づき、人口や都市・村落に関する特色ある事象を中核として、関東地方の地域的特色を捉えさせることをねらっている。同時に、新学習指導要領での「② 人口や都市・村落を中核とした考察の仕方」を基に学習課題を設定し、これに先立って学習した「C(2)」の小項目の学習で身につけた事項を活用できるようにした。つまり、関東地方の学習において、特に人口や都市という視点を中核に置き、「国内外から多くの人々が集まる東京・これからも住み続けられる都市にしていくなめにはどうすべきか」という学習課題を設定した。

関東地方は、日本で最も人口が多い地方であり、総人口の約3分の1が生活している。中でも、日本の首都として様々な機能が一極集中している東京は、「人の多さ、多様さ」が際立っている。この東京の特徴について、関東地方の単元全体を通して、国内の他地域との関係、東京郊外や関東地方内部との結び付き、世界的視野といった異なるスケール間関係の取りあげ、グローバル化や情報化といった社会の変化とも関連づけながら、多面的に捉えさせたい。

また、今回、関東地方（「世界都市 東京」）の学習に入る前に、「外国の人たちには東京はどのように見えているか」というテーマで、生徒たち全員に東京に住む、あるいは東京に観光などで来ている外国の人へのインタビューを中心とする調査を実施した。東京の捉え方は、個々の生徒で異なり、生徒間でも様々である。そこに、他者（外国の人たち）に話を聞いたり、他のインタビュー調査結果を知ったりすることを通じて、さらに多種多様な東京のイメージが生徒たちの前に提示されることになる。しかし、それらのイメージをそのまま受け取るのではなく、グループ活動しながら様々な資料を用いて吟味し根拠づけることを通して批判的思考力を働かせながら、他者の多様な考えを受容し発展させようという姿勢を育みたい。なぜなら、このような姿勢が、多様性の尊重の土台になると考えるからである。

これらの理解のうへに、「多様な人がたくさん集まる東京を、これからも住み続けられる都市にしていくなめにはどうすべきか」、即ち東京の持続可能性における今後の課題について考察、議論させたい。その際、過密という都市問題の解決という視点だけでなく、多様な人々との共生という視点も意識させ、誰にとっても住みやすい東京について追究させたいと考えている。そして、これらの視点での考察、追究を、単元後半の東京と他の地域との結び付きの学習に生かしていきたい。このような一連の学習活動を通して、「主体的・対話的で深い学び」が生まれると考える。

3 「一人ひとりを支える・生かす・伸ばす」視点から

帰国生たちから、「日本の小学校で学習する内容を知らないので不安だ」「一般生は日本の歴史も日本の地理もよく知っていて圧倒される」「中学校での社会科の学習内容もまだわからない部分が多い」といった声がよく聞かれる。特に、中学2年で学習する日本地理の内容は、小学校時代に詳細に学習してきた一般生との差を嫌がうへにも意識させられ、「わからない、知らない」という心情が先に立ち、苦手意識を強める帰国生も少なくない。その反面、自分が住んでいたところの地理や歴史が出てくると、興味・関心も高く、理解しやすいと感じる帰国生は多い。

今回取りあげる関東地方、とりわけ東京は、帰国生たちも生活している身近な地域であり、なじみもある。都内の小学校では、東京をかなり詳しく学習している点は懸念されたが、帰国生にとっても日常的な経験などから得られる東京の身近さは学習意欲の面でもプラスに働くと考えた。帰国生は、東京に戻り、住んでいた都市との違いを感じていることも多いと考えられる。今回、外国の人たちへのインタビュー調査の結果を皆で共有することで、既存の知識にとらわれずに「世界都市 東京」の特徴について考察を深められると考えた。さらに、外国の人たちがなぜそう考えるのかについて、帰国生が自分の経験を踏まえ、新たな視点を学習場面に投げかけると期待している。その視点の広がり、多様性の尊重に気づかせ、東京の持続可能性における今後の課題を考察、議論する上でも生かされたいと考える。そして、今後の身近な地域の学習にもつなげていきたい。

4 題材・単元の展開

第1～3時 世界都市 東京 (2/3 本時)

- ①なぜ東京には多くの人が集まるのか
- ②外国の人たちには東京はどのように見えているのか
- ③多様な人がたくさん集まる東京 これからも住み続けられる都市にしてい

く

第4・5時 人口の集中と諸地域との結びつき (産業や生活への影響)

- ①他地域との関係
- ②東京郊外や関東地方内部との結びつき

第6時 世界の窓口として

5 本時の学習

(1) 本時の目標

- ①外国の人たちから見た東京の調査結果をもとに、様々な資料を適切に活用しながら、世界都市東京の特徴について理解する。
- ②調査結果をを分類、整理したり、資料をもとに吟味したりなどのグループ活動を通して、世界都市東京の特徴について多面的・多角的に考察する。

(2) 本時の展開

	主な学習内容と活動	指導上の工夫・配慮
課題設定	・前時の振り返り 「外国の人たちから見た東京の良さにはどんなことがあったか。」 (インタビュー後の生徒たちの感想も紹介) ・本時の問い(1) 「逆に、外国の人たちは東京のどんなところが問題だと思っていたか。」 - インタビュー調査をもとに、東京の問題点としてあがっていたことがらを自由に発言する。	・前時では、外国の人たちから見た東京の良さや強みなどに着目したことを振り返る。 ・本時でも実際のインタビュー場面を思い起こさせながら、外国の人から見た東京の問題点について多様な意見を出し合えるようにする。 ・帰国生たちの考えも適宜紹介する。 ・生徒自身の考える問題点も出させ、問題点を克服して東京を住み続けられる都市にしてい - くための考察につなげていくことを予告しておく。
課題追究	①東京の問題点についてのインタビュー内容を比較、分類する。 - グループ活動→全体での共有 ②外国の人たちから見た東京の問題点の根拠となる資料をさがし、吟味する。 - 問題点をグループごとに分担して、東京の問題点の内容を明確にしていく。	・模造紙や色ペン、ポストイットなどを使用し、多様なインタビュー内容を比較、分類しやすいように工夫する。また、どんな視点で分類したらよいか、複数の視点を提示して整理させる。 ・調査結果を根拠づける資料を、生徒たち自身が持つ諸資料から見つけ出せるよう声がけする。また、関係する資料(帰国生たちが住んでいた都市の資料、ビジュアル資料等)を教師側で用意しておく。
省察	・本時の問い(2) 「世界都市東京の問題点は何か。」 - また「東京がこれからも住み続けていける都市にしてい - くためにはどうしたらいいか」 - 個人の考えをプリントに記入したり、発言したりする。	・自分たちの予想との相違点に着目させる。 ・「解決不能」という意見などを取り上げ、本当にそういえるのか、考えを揺さぶる。 ・東京の問題点を克服するためにはどうしたらよいかという課題に意欲的に取り組めるように、グループでの活動を生かしたり、自分ごととして捉える雰囲気づくりを工夫する。

(3) 本時の評価

- ①インタビュー調査結果や様々な資料を適切に活用し、東京の特徴を理解できたか。
- ②グループ活動におけるインタビュー調査結果の分類・整理、資料に基づく吟味を通して、東京の特徴を多面的、多角的に考察できたか。